CASBEE® あいち　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)DCMカーマ豊田五ケ丘店 新	階数	地上1階
建設地	愛知県豊田市五ケ丘四丁目1-1,1-7	構造	S造
用途地域	第一種住居・第一種高層住居専用地	平均居住人員	856 人
気候区分	5地域	年間使用時間	3,620 時間/年
建物用途	物販店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月　予定	評価の実施日	2017年6月9日
敷地面積	15,979 ㎡	作成者	橋本 浩司
建築面積	3,040 ㎡	確認日	2017年6月9日
延床面積	2,987 ㎡	確認者	松田 篤義

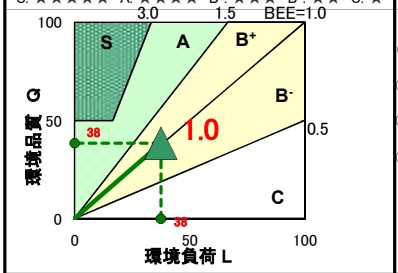
1-2 外観

外観パース等

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

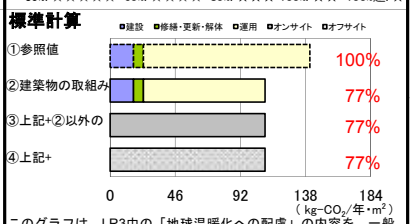
BEE =1.0 ★★★☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



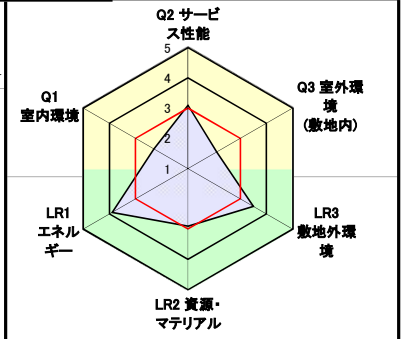
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

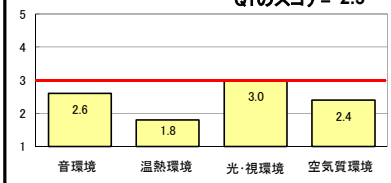
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



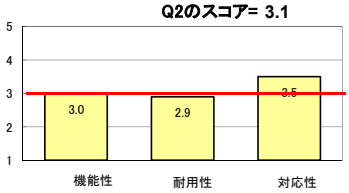
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.5

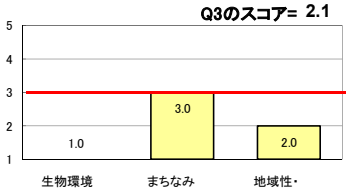
Q1 室内環境　Q1のスコア= 2.3



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.1

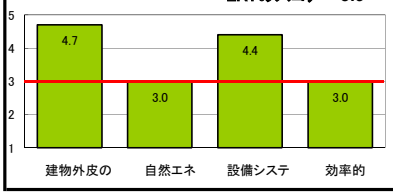


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.1

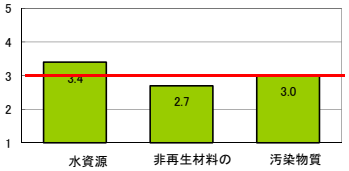


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.4

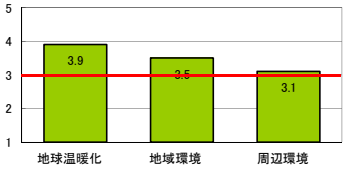
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.9



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 2.9



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.5



3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.9

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	5.3 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

②資源の有効活用

2.9

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。
①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数＝ 中高木の樹冠の水平投影面積＋低木・地被等の植栽面積 / 敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた ×100

建物緑化指数＝ 屋上緑化面積＋壁面緑化面積 / 建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積) ×100

CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き

(仮称)DCMカーマ豊田五ケ丘店　新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部 評価点	建物全体・共用部 評価点	建物全体・共用部 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									2.5
Q1 室内環境					0.40			-	2.3
1 音環境			3.0	2.6	0.15			-	2.6
1.1 室内騒音レベル			3.0	3.0	0.40			-	
1.2 遮音			3.0	3.0	0.40			-	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00			-	
2 界壁遮音性能				-	-			-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-			-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-			-	
1.3 吸音				1.0	0.20			-	
2 温熱環境			3.0	1.8	0.35			-	1.8
2.1 室温制御			3.0	2.6	0.50			-	
1 室温			3.0	3.0	0.50			-	
2 外皮性能			3.0	1.0	0.17			-	
3 ゾーン別制御性			3.0	3.0	0.33			-	
2.2 湿度制御			3.0	1.0	0.20			-	
2.3 空調方式			3.0	1.0	0.30			-	
3 光・視環境			3.0	3.0	0.25			-	3.0
3.1 昼光利用			3.0	3.0	0.50			-	
1 昼光率				-	-			-	
2 方位別開口				-	-			-	
3 昼光利用設備			3.0	3.0	1.00			-	
3.2 グレア対策				-	-			-	
1 昼光制御				-	-			-	
3.3 照度			3.0	-	-			-	
3.4 照明制御			3.0	3.0	0.50			-	
4 空気質環境			3.0	2.4	0.25			-	2.4
4.1 発生源対策			3.0	3.0	0.50			-	
1 化学汚染物質			3.0	3.0	1.00			-	
4.2 換気			3.0	1.0	0.30			-	
1 換気量			3.0	1.0	0.50			-	
2 自然換気性能			3.0	-	-			-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	1.0	0.50			-	
4.3 運用管理			3.0	3.0	0.20			-	
1 CO_2の監視			3.0	-	-			-	
2 喫煙の制御			3.0	3.0	1.00			-	
Q2 サービス性能				–	0.30		-	-	3.1
1 機能性			3.0	3.0	0.40			-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	3.0	0.40			-	
1 広さ・収納性			3.0	-	-			-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-			-	
3 バリアフリー計画	独自		3.0	3.0	1.00			-	
1.2 心理性・快適性			3.0	2.6	0.30			-	
1 広さ感・景観　(天井高)		天井高は、4.5mである。	3.0	5.0	0.33			-	
2 リフレッシュスペース			3.0	2.0	0.33			-	
3 内装計画			3.0	1.0	0.33			-	
1.3 維持管理			3.0	3.5	0.30			-	
1 維持管理に配慮した設計		清掃性及び防錆対策などの配慮。	3.0	4.0	0.50			-	
2 維持管理用機能の確保			3.0	3.0	0.50			-	
2 耐用性・信頼性			3.0	2.9	0.31			-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	3.0	0.48			-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80			-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20			-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	3.2	0.33			-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23			-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			2.0	0.23			-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用している。		5.0	0.09			-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08			-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材を使用している。		5.0	0.15			-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23			-	
2.4 信頼性			3.0	2.4	0.19			-	
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20			-	
2 給排水・衛生設備			3.0	2.0	0.20			-	
3 電気設備	②		3.0	3.0	0.20			-	
4 機械・配管支持方法			3.0	1.0	0.20			-	
5 通信・情報設備			3.0	3.0	0.20			-	

3 対応性・更新性			0.2	3.5	0.29			-	3.5
3.1 空間のゆとり	②		0.3	5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり		階高は6.79mである。		5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率は0.079である。	3.0	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性			0.3	2.8	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性			3.0	1.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性		仕上材を痛めずに改修・更新が可能である。	3.0	5.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22			-	
Q3 室外環境（敷地内）				–	0.30		-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-			-	3.4
LR1 エネルギー				–	0.40		-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.83	3.0	4.7	0.30			-	4.7
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEIm=0.73	3.0	4.4	0.30			-	4.4
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20			-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50			-	
集合住宅の評価			-	-	-			-	
4.1 モニタリング					-			-	
4.2 運用管理体制					-			-	
LR2 資源・マテリアル				–	0.30		-	-	2.9
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水		給水器具の過半に節水機能のあるものを採用している。	3.0	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63			-	2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	–		3.0	0.21			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	–	3.0	1.0	0.21			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上材の分離が容易である。	3.0	4.0	0.25			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤（断熱材等）				3.0	0.50			-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境				–	0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	①	CO2排出率：77%。		3.9	0.33			-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	3.5	0.33			-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を設置していない。		5.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.3	3.0	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制	独自	十分な駐車スペース、荷捌きスペースを確保している。		5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33			-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.3	3.0	0.40			-	
1 騒音	独自			3.0	1.00			-	
2 振動	独自			-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制					-				
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制			0.3	3.7	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満足している。		4.0	0.70			-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート　実施設計段階

(仮称)DCMカーマ豊田五ケ丘店　新築工事

■使用評価マニュアル　CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き
■評価ソフト:　CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:5.29%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	－	なし
Q3-3.1 Ⅰ 2)	地域性のある材料の使用	0.0	－	なし

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
　重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用
　重点項目スコア＝ (評価点×全体に対する重み)の総和 / 重みの総和

④地域材の活用
　重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■　環境設計の配慮事項

■建物名称　（仮称）DCMカーマ豊田五

計画上の配慮事項	
総合	豊田市に計画された物販店舗である。 高効率な設備機器の導入や、燃焼機器を設けないことにより環境負荷の低減に配慮した建物である。 また駐輪場・駐車場を計画することで近隣の渋滞緩和など、近隣への配慮も行っている。
Q1 室内環境	・必要に応じた空調設備計画がなされており、安定した環境を保っている。
Q2 サービス性能	・階高を確保し、壁長さ比率を0.1未満に抑える事で、空間のゆとりを持たせ対応性・更新性の向上に配慮している。 ・耐用年数の配管材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。
Q3 室外環境（敷地内）	・空地を多く設けることにより、風の通り道を確保している。
LR1 エネルギー	・高効率な設備機器を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮している。 ・LED照明を採用し、エネルギー消費量を抑えている。
LR2 資源・マテリアル	・躯体と仕上材の分別を容易にする事で、非再生性資源の使用量削減に配慮している。
LR3 敷地外環境	・燃焼設備を設けず、オール電化とすることで敷地外への大気汚染防止に配慮している。 ・駐輪場・駐車場の計画は利便性、交通渋滞緩和に配慮している。
その他	－